「研究大学強化促進事業」令和３年度フォローアップコメント

機関名	フォローアップコメント
京都大学	○日本の URA の先導的モデル大学として、我が国の URA 制度定着のために中心的な役割を果たしていることは評価できる。特に、URA の勤務評定に基づく昇給・昇格や無期雇用への移行を実施したことは高く評価できる。 ○コロナ禍を踏まえた取組として、京都大学 ASEAN 拠点が中心となり、国際担当 URA の貢献の下、コロナ禍でも学生が安全に国内外のフィールドワークを体感できる映像教材を開発し、Web サイトにて一般公開したことは評価できる。 ○研究支援専門職の国際大会「INORMS2021」での京都大学による口頭発表内容については、URA の先進的な取組事例を紹介しており、研究大学コンソーシアム等を通じて広く国内の大学等に共有するとともに、更なる先導的な取組に着手することを期待する。

令和２年度(2020 年度)フォローアップ結果への対応状況と今後の事業展開について

機関名	国立大学法人京都大学				
統括責任者	役職	学長	実施責任者	部署名・役職	理事・副学長
	氏名	湊　長博		氏名	時任　宣博

令和２年度(2020 年度)フォローアップ結果
○多くの指標が成果目標に向かって増加しており、全体として順調に進捗していると判断される。 ○将来構想「多様な人材の育成・確保」に向けた取組（外国人研究者支援体制の構築、国際アドミッション支援オフィスの設置、若手教員割合に関する目標達成に向けた取組方策の策定、博士課程人材を含む次世代研究者支援等）を着実に推進していることは評価される。 ○国際共著論文率は増加傾向にあるが、産学共著論文率とTop10%論文率の更なる増加に向けて「融合チーム研究プログラム（SPIRITS）」や学内産連特区制度などの取組に一層期待したい。 ○「日本のＵＲＡの先導的モデル大学」として国内のＵＲＡ制度定着のために、同大ＵＲＡが中心的な役割を果たしていることは評価される。今後、その成果を学内外で水平展開・活用されていくことを期待したい。

将来構想の達成に向けた現状分析
将来構想１【越境する「知」「人」を生み出し循環させる大学】
●令和２年度(2020 年度)フォローアップ結果への対応状況 昨年度も高い評価を受けた将来構想「多様な人材の育成・確保」の実現に向けた取組について、引き続き様々な支援策を推進している。 Top5%学術雑誌への投稿と、公正でオープンな出版活動を啓発・促進するオープンアクセスジャーナル投稿料（APC）支援事業「みちびき」を令和 2 年度より新たに試行的に開始し、74 件の出版支援を実施した。令和 3 年度も Top5%論文数の増加に貢献する支援制度として本格的に実施する。 国際共著論文及び産学共著論文の増加に向けて、引き続き「融合チーム研究プログラム（SPIRITS)」の最適化を通じて支援を強化している。加えて、海外出身研究者の研究活動の活性化のため、学術研究支援室（以下、KURA）の外国人研究者支援チーム（FRESH）が、すべての研究支援に係る情報の完全日英バイリンガル化を完了（49 件）する等、研究者ニーズに応じた支援を展開している。 協調領域の産学連携共同研究を促進するため、産官学連携本部と KURA が産学共同研究コンソーシアム等のマネジメント及び共同研究組成のコーディネートを支援する「共創チーム」を形成した。また、産学連携推進のための学内特区であるオープンイノベーション（OI）機構には特定教授・特定准教授 6 名を配置して企業との大型共同研究の形成を支援しており、とりわけカーボンニュートラル実現に向けて、産官学連携本部、OI 機構、KURA が連携して「京都大学カーボンニュートラル推進フォーラム」を立ち上げる等、更なる共同研究の開拓に取り組んでいる。こうした活動は必ずしも産学共著論文の増加に直接つながるものではないが、民間資金を呼び込みつつ社会課題の解決に貢献する取組として引き続き進めている。

●現状の分析と取組への反映状況

【新たな学術領域の創成】

概ねすべての指標において成果を上げ順調に推移しているが、国際的に評価の高いジャーナル(Top5%)への掲載数については一時的に減少した。原因の詳細は分析中であるが、その対応として上述の通り新たな支援事業「みちびき」を開始した。

また、URA が企画運営をする SPIRITS においては当初の計画を上回るペースで新たな融合研究プロジェクトが生まれている。令和 3 年 3 月には「人文知の未来形発信」重点領域で採択された第 1 期プロジェクト群（3 件）が研究課題を終了。当該領域において初めての成果をもたらした。プログラムを通じて、人文・社会科学分野で培われてきた知識を新しい形で広く発信している。

全国に先駆けて研究データのオープン化を大学全体として推進している。特に、学内に設置しているアカデミックデータ・イノベーションユニットが研究データ管理に関するワークショップを開催したほか、研究者情報整備委員会が令和 2 年 3 月に「研究データ管理・公開ポリシー」を策定し、令和 2 年度には部局の実施方針策定のためのガイドラインひな形を作る等、さらなる取組を進めている。これらは学内支援組織の教職員や KURA の URA のみでなく多様な分野の研究者も参加・協力し推進している。

【国際協働の深化】

目標達成に向けて各指標は向上傾向にあり、国際共著論文数においては目標を大きく上回った。一方で、新型コロナウィルス感染症の拡大に伴い、海外拠点の運営等において影響が出始めているものの、On-site Laboratory の設置は順調に進んでおり（延べ 11 件）、整備済みの全学海外拠点の 3 拠点と、2 つのオフィスも含めて国際共同研究推進にかかる支援を展開している。

令和 2 年度の取組の具体的な好事例として、第一に、戦略的パートナーシップ MOU に基づきチューリヒ大学、ハンブルグ大学、国立台湾大学と共同ファンドプログラムの企画に着手し、チューリヒ大学間では既に 6 件の共同プロジェクトを支援中である。第二に、本学 URA が日本から唯一、第 79 回 ASEAN 科学技術イノベーション委員会（ASEAN COSTI-79）に招待され、公式プログラムにて、日 ASEAN 間での国際共同プロジェクトを支援する STI Coordinator（国際的なプロジェクトの推進に不可欠な URA を含む国際共同プロジェクトのコーディネート人材の総称）育成に関する発表を行った。その結果、第 11 回非公式 ASEAN 科学技術大臣会合の共同メディア声明への明記に加え、その他メディアにも掲載された。URA が海外拠点駐在を通じて培った人脈や信頼関係を活かしたこれらの取組により、本学の重点地域である ASEAN との相互発展に URA が貢献した。

【国際協働の深化：WPI】

本学 WPI アカデミー拠点(iCeMS)では新たな On-Site Laboratory をシンガポールに設立した。米国 UCLA とは大学間学術交流協定を締結し、台湾では台湾中央研究院と共同運営を進める On-site Laboratory を通じた学術交流をさらに深める等、環太平洋地域における国際協働を促進している。

【多様な人材の育成・確保】

昨年度も高い評価を受けた博士課程人材を含む次世代研究者（Early Career Researcher:以下 ECR）への支援については、引き続き支援策を推進している。令和 2 年度より ECR への支援情報を集約させたポータルサイト(https://ecr.research.kyoto-u.ac.jp/)の運用を開始しており、コンテンツの充実に加えて ECR へのニュースレター発信（登録者数 約 550 名）を進め、ECR の育成に資する支援を推進している。

また、URA が研究者の国際的なキャリアアップに繋がる機会を提供している。特色ある取組としては、ECR の挑戦的な研究活動の価値に共感する学外の多様な研究支援機関との連携を進めており、その一例として、シュプリンガー・ネイチャー社のフィリップ・キャンベル編集長と本学 ECR4 名のオンライン座談会を開催し、その成果は Nature ダイジェスト（2021 年 8 月号）に特集記事として掲載された。他方、留学生数についてはアドミッションオフィスの活動も踏まえた取り組みを推進しているが、コロナ禍の影響もあり今後も伸び悩むことが予想される。

【多様な人材の育成・確保：WPI】

本学 WPI アカデミー拠点(iCeMS)では、英国の SNS コンサルティング会社と契約して海外に向けた研究活動

の情報発信に努めており、海外の若手研究者を呼び込むための活動を推進している。

【産官学共創の加速】

産学共同研究推進について、全体としてコロナ禍の影響により後退傾向もみられるが、一方で、令和3年度からの間接経費率30%アップに対する企業の理解も進んでいる。

大型共同研究数については、京大オリジナル株式会社や OI 機構等が有効に機能し、ダイキン工業株式会社との「組織対応型包括連携協定」において新たな共同研究開発テーマを設定する等、産学共同研究の大型化が進んでおり、大型共同研究件数において当初の目標を上回る成果をあげている。

その他の具体的な取組としては、出資子会社を含む産連支援組織によるワンストップ産学連携支援窓口となる「産学連携情報プラットフォーム Philo」を大学として立ち上げ、URA もその推進に協力している。また、上述のカーボンニュートラル推進フォーラムの立ち上げに加え、文部科学省等で進める「カーボンニュートラルの達成に向けた大学等コアリション」に参画し本学の取組を全国展開するために、URA も参画する「コアリション推進委員会」を学内に設置した。学内の関連する研究成果の社会発信も強化している（東洋経済「ACADEMIC SDGs に取り組む大学特集 Vol.3」[2021 年 6 月]、等）。

将来構想２【URA が定着し経営を支える大学】

●令和２年度(2020 年度)フォローアップ結果への対応状況

昨年度に引き続き、4 名の URA がプロボストオフィス室員を兼務し、URA の知見やノウハウを事務職員と共有して、大学として優秀な若手研究者や海外留学生等を呼び込む施策の検討、第 4 期中期目標・中期計画の策定等、戦略調整会議及びその小委員会における施策立案に貢献している。

部局長や部局事務による部局運営及び研究力強化施策の検討を支援するため、部局事務によるインスティテューショナル・リサーチ（IR）を KURA の IR チームが支援（令和 2 年度実績：11 件）。IR ノウハウの横展開を図っている。具体的には、令和 2 年度はデータ分析に係る URA の知見・技術を学内に展開するため、部局別分析ツールを新たに構築し、部局長に対して研究成果に関するレポートを迅速に提供できる仕組みを試行した。

●現状の分析と取組への反映状況

【エビデンスに基づく戦略的経営】

全体的に各指標において当初の目標を達成している。研究戦略策定の支援の一環として、URA が学内の関連組織・海外拠点及び学外機関とも協働し、本学の研究力分析に関するレポートや海外学術研究機関等の研究力強化施策に関する動向調査レポートを大学執行部に対して継続的に提供している。また、上述の通り、部局長からの依頼を受けて部局の研究力分析に係る支援も進めている。

外部資金を獲得するための新たな手段として、学術系クラウドファンディング（CF）を研究者個人が検討する例が増えており、事務職員や URA にも相談が寄せられており、このクラウドファンディング（CF）の利活用を推進する実施体制の整備及び全学指針の策定に URA が貢献している。

本学においても「教員が主体的に企画・実施する研究」、「自由な研究」に取り組む時間の増加を希望する声が多数寄せられている。そこで、寄付金の特性を活かした自由度の高い資金（研究費のほかにも、研究室運営における基盤的経費、研究時間確保に執行可能）と対話・研鑽の場を提供する新たな学内ファンド「くすのき・１２５」を令和 2 年度より URA と関連部署で立ち上げた。起案にあたっては URA が培ってきた学内ファンドの企画・運営・評価・改善のノウハウが十分に活かされている。

「くすのき・１２５」、「SPIRITS」だけでなく、他にも関連部署と協働で進める学内ファンドは複数存在する。そこで、令和 3 年度よりこれまでに URA が企画実施してきた多様な学内ファンドの包括的な評価を開始した。その効果の検証を通じて第 4 期中期目標・中期計画に向けた方針を検討している。

【学内 URA の定着に向けた取組強化】

昨年度に引き続き、URA の勤務評定に基づいて昇給、昇格を実施した。URA の更なる定着化を目指し、一部の URA については勤務評定を踏まえて無期雇用へ移行した（令和 2 年度実績：4 名）。

将来構想３【日本のURAシステムの先導的モデル大学】
●令和２年度(2020年度)フォローアップ結果への対応状況 金沢大学が文部科学省からの委託を受けて実施している「リサーチ・アドミニストレーター―に係る質保証制度の構築に向けた調査研究」に KURA が全面的に協力し、そのうち「研修プログラム検討ワーキンググループ（WG)」の主査をKURA室長が務めたほか、本学のURAが研修カリキュラム作成や認定の試行に貢献した。 URA組織の世界大会である「INORMS 2021-Hiroshima」（令和3年5月24-27日）にKURAからは招待講演を含む6件の口頭発表と4件のポスター発表を行い（日本の大学として最多の発表数)、先進事例やグッドプラクティス等を海外のURAにも積極的に情報共有を図った。 研究大学コンソーシアムが主導して進めている研究DX推進事業「MIRAI プロジェクト」（文部科学省令和2年度補正予算）の企画推進にKURAのURAが大きく貢献し、本学がこれまで最適化した融合研究形成の手法が導入されるなど、ノウハウの横展開を図った。
●現状の分析と取組への反映状況 【国内URA制度定着への貢献】 本学では独自に開発したURA育成カリキュラム（Level1, 2 の2段階）を用いて研修を進めている。令和2年度は新規採用URAだけでなく、学内他部署に所属する研究支援職の職員にも受講の門戸を広げて実施した。また、令和3年度はURA質保証制度の中で実施が検討されている「Fundamental レベル研修科目」との単位互換を見据えて、Level1（13科目）を大きく改訂した。 第6回RA協議会年次大会（令和2年9月17-18日）では国内の大学・研究機関の中で最大数のセッション（4件）を企画し議論を深めた。また、RA協議会の運営についても、KURA室長が副会長及びスキルアッププログラム委員会委員長を、副室長が運営委員を、その他各種分科会においても KURA のメンバーが委員を務めて貢献した。 京都大学ではJST科学技術人材育成費補助事業の「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」の採択（令和元年度）を受けて「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」(通称 L-INSIGHT)事業を開始した。本プログラムを進めるにあたって、KURAのURAが担当教員として異動し、次世代研究者支援ノウハウを反映した育成プログラムの作成に貢献している。また、KURA と連携してプログラムの成果について学内外へ展開を図っている。

ロジックツリー・ロードマップの利活用・横展開状況
● 令和2年度以降もURAが推進する19の支援プログラムについて、ロジックツリー・ロードマップに基づいて、プログラムごとにロジックモデルを作成している。さらに四半期ごとに進捗報告会を開催するとともに、各支援プログラムでロジックモデルを活用しながら、支援プログラムの最適化を図る等PDCAサイクルを回している。さらに、年度末には支援プログラム全体の進捗状況を確認し、定期的なロジックツリー・ロードマップの見直しを図っている。具体的事例としては、上述の新規学内ファンド「くすのき・１２５」の企画において、ロジックモデルに基づくこれまでの学内ファンドの振り返り評価を踏まえて設計を行った。 ● ロジックモデルは、京大URA 育成カリキュラムLevel2の中で作成方法とその活用について演習を通じて細かく指導しており、URA だけでなく参加する学内他部署の事務職員・URA 関連職員にも紹介している。

特筆すべき事項（定性的な現状・取組状況等）

- （再掲）京都大学創立125周年記念事業として、寄付金を活用した次世代の研究者の自ら描く長期ビジョンへ挑戦と研究に集中できる環境づくりをサポートする学内ファンド「くすのき・１２５」を企画し提供を開始した。

- 令和2年度に本学の桂キャンパスに図書館がオープンしたことに伴い、様々なステークホルダー（学学、産官学、一般等）に向けて本学の研究シーズを可視化し、産学連携による研究活動の促進を目指して、図書館内における研究シーズの展示やweb発信を活用した研究シーズマッチングに取組むプロジェクト「桂の庭」（https://seeds.t.kyoto-u.ac.jp/）を開始した。図書館の従来機能を超えた研究支援機能の実践の一環として、図書館職員や工学研究科の教員とURAが協力して企画・運営にあたっている。

【コロナ禍における研究推進】

（再掲）海外拠点の運営等において影響が出始めているものの、On-site Laboratoryの設置は順調に進んでおり（延べ11件）、整備済みの全学海外拠点の3拠点と、2つのオフィスも含めて国際共同研究推進にかかる支援を展開している。

新型コロナウィルス感染拡大により、国内外フィールドワーク実習・プログラムの見直しを余儀なくされた。そこで京都大学ASEAN拠点が中心となり、ASEAN拠点ネットワーク会議参画部局の協力の下、コロナ禍でも学生が安全に国内外のフィールドワークを体感できる映像教材を開発し、同拠点のWebサイトにて一般公開した（https://www.oc.kyoto-u.ac.jp/overseas-centers/asean/virtual-fields/）。日経新聞等（令和3年7月7日朝刊）でも紹介され、他大学、国土交通省や企業の関係者からも期待が寄せられている。企画にあたっては国際業務を担当するURAも貢献した。

WPI拠点においては、COVID-19感染拡大に関する情報が次々と流れてくる状況の中で、正確な情報を整理して研究者に提供するとともに、日本語のみで提供されている行政機関等の新型コロナ関連情報について英語の冊子（外国人研究者向け COVID-19 対応ガイドブック）を作る等の情報提供を図り、海外出身研究者の研究環境の維持に努めた。なお、この冊子はJSPSのWPI Forumでも好事例として紹介され、他大学・研究機関に広く展開されている。（https://wpi-forum.jsps.go.jp/j-index/arrangement/seibi04/iCeMS/）

【参考】論文の質に係る指標について

	Scopus				WoS			
	2013-2017平均	2014-2018平均	2015-2019平均	2016-2020平均	2013-2017平均	2014-2018平均	2015-2019平均	2016-2020平均
国際共著論文率	31.5%	32.8%	33.9%	35.0%	32.6%	34.1%	35.3%	36.6%
産学共著論文率	6.9%	7.0%	7.1%	7.0%	4.7%	4.6%	4.6%	4.5%
Top10%論文率	12.1%	12.1%	11.9%	11.5%	11.9%	11.9%	11.6%	11.1%

2021年8月5日時点

京都大学「研究大学強化促進事業」ロジックツリー【概要版】

将来構想	事業終了までのアウトカム（2021（R3）年度-2022（R4）年度）	中間的なアウトカム（2019（R1）年度-2020（R2）年度）	アウトプット（2021（R3）年度の取組）	アウトプット（2020（R2）年度の取組）	アウトプット（2019（R1）年度の取組）
越境する「知」「人」を生み出し循環させる大学	**新たな学術領域の創成** 指標(1)：国際・学際・産学融合研究プロジェクト実施数 指標(2)：新規大型プロジェクト代表者数 指標(3)：国際的に評価の高いジャーナル（Top5%）への掲載論文数 指標(4)：人文・社会科学の未来形に関する大綱策定・発信	**新たな学術領域の創成に向けた取組の強化** 指標①：新規融合研究拠点/ユニット等の設置状況 指標②：人社系を中心とするシンポジウム等の企画・開催状況 指標③：研究データオープン化推進状況	研究成果の発信支援（研究成果のWEB・メディア発信、海外向け発信媒体の制作） 「国民との科学技術対話」活動支援 融合チーム研究プログラム（SPIRITS）【国際型】【学際型】【産官学共創型】の企画・運営・改善 分野横断研究の土壌を醸成するプラットフォーム構築事業の企画・運営・改善 ライトユニットの設置と運営 人文社会科学系の研究力強化のための学内ファンドの企画および成果発信企画の実施 研究データマネジメントワークショップの開催、研究データ管理サービスの試行促進、研究者のための窓口運用開始 オープンアクセスジャーナル投稿料（APC）支援事業「みちびき」の企画・運営・最適化	研究成果の発信支援（研究成果のWEB・メディア発信、海外向け発信媒体の制作） 「国民との科学技術対話」活動支援 融合チーム研究プログラム（SPIRITS）【国際型】【学際型】【産官学共創型】の企画・運営・改善 分野横断研究の土壌を醸成するプラットフォーム構築事業の企画・運営・改善 ライトユニットの設置と運営 人文社会科学系の研究力強化のための学内ファンドの企画および成果発信イベントの企画・開催 研究データマネジメントワークショップの開催、研究データ管理サービスの試行提供 オープンアクセスジャーナル投稿料（APC）支援事業「みちびき」の企画・運営	研究成果の発信支援（研究成果のWEB・メディア発信、海外向け発信媒体の制作） 「国民との科学技術対話」活動支援 融合チーム研究プログラム（SPIRITS）【国際型】【学際型】【産官学共創型】の企画・運営 分野横断研究の土壌を醸成するプラットフォーム構築事業の企画・運営 萌芽的な融合研究ユニットの立ち上げを可能にするライトユニット制度の創設 人文社会科学系の研究力強化のための学内ファンドの企画および成果発信イベントの企画・開催 研究データのオープン化のための第2回調査の実施。オープンデータ化ワークフローの作成
	国際協働の深化 指標(5)：国際化推進支援のための海外拠点等設置数 指標(6)：学術交流協定の締結数 指標(7)：国際共著論文数 指標(8)：On-site Laboratoryの設置状況	**国際協働を深化する支援体制の構築** 指標④：URAが参画する全学的な国際化推進業務体制	WPI拠点ノウハウに基づく拠点形成支援と国際アウトリーチ活動 海外大学とのMOU締結支援、国際シンポジウム等の開催支援による国際共同研究・プロジェクトの創出支援、海外研究機関等との戦略的パートナーシップMOUに基づく、共同ファンドプログラムの企画・運営開始 欧州・ASEAN拠点へのURA駐在で培った人脈・情報網を通じて、コロナ状況の情報収集、ICT・オンライを活用した研究教育教材の開発支援、国際交流・ネットワーク形成支援 北米拠点（サンディエゴリエゾンオフィス含む）およびアフリカオフィスの運営支援 研究成果/研究資源の海外発信強化支援 海外研究ファンド情報収集・提供と獲得支援の拡充 On-site Laboratoryの設置と運営支援窓口の運営	WPI拠点ノウハウに基づく拠点形成支援と国際アウトリーチ活動 海外大学とのMOU締結支援、国際シンポジウム等の開催支援による国際共同研究・プロジェクトの創出支援、海外研究機関等との戦略的パートナーシップ構築事業の企画・実施 欧州・ASEAN拠点へのURA派遣・駐在。日欧ASEANの三極連携機能の構築。 ASEAN拠点（NGO法人格取得済）の運営の実施 北米拠点およびアフリカオフィスの運営支援 研究成果/研究資源の海外発信強化支援 海外研究ファンド獲得支援の拡充 On-site Laboratoryの設置と運営支援窓口の構築	WPI拠点ノウハウに基づく拠点形成支援と国際アウトリーチ活動 海外大学とのMOU締結支援、国際シンポジウム等の開催支援による国際共同研究・プロジェクトの創出支援、海外研究機関等との戦略的パートナーシップ構築支援 欧州・ASEAN拠点へのURA派遣・駐在。日欧ASEANの三極連携機能の構築。 ASEAN拠点についてはタイ政府よりNGO法人格を取得 北米、アフリカ等の海外新拠点の設置支援 研究成果/研究資源の海外発信強化支援 海外研究ファンド獲得支援体制構築 On-site Laboratoryの構築支援
	多様な人材の育成・確保 指標(9)：研究環境改善・キャリア形成の支援プログラム拡充 指標(10)：多様な人材の確保・育成状況	**多様な人材育成・確保に向けた環境改善** 指標⑤：外国人研究者支援体制の構築 指標⑥：国際アドミッション支援オフィスの設置 指標⑦：若手教員割合に関する目標達成に向けた取組方策の策定 指標⑧：博士課程人材を含む次世代研究者（ECR）支援体制の再構成を踏まえた最適化 指標⑨：博士課程人材を含む次世代研究者（ECR）支援	外国人研究者支援（外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワーキング等）の体制の強化と機能の深化 博士課程人材を含む次世代研究者（ECR）の研究環境の改善施策および研究キャリア形成支援（卓越大学院、OPERAプログラム等を通じた産学連携による若手支援等も含む）の実施、関連する調査分析・報告 「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」（L-INSIGHT）の企画・運営支援 若手・中堅研究者をターゲットとする学内ファンドの企画・運営 学振特別研究員申請支援（説明会・模擬ヒアリング等）の体系化・効率化 京大創立125周年記念における寄附を利用した新学内ファンドの企画・運営 博士課程人材を含む次世代研究者（ECR）向け支援活動の実施（次世代研究者支援ポータルサイト運用、セミナーの実施、メーリングリストによる情報配信）	外国人研究者支援（外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワーキング等）の体制の強化と機能の深化 博士課程人材を含む次世代研究者（ECR）の研究環境の改善施策および研究キャリア形成支援（卓越大学院、OPERAプログラム等を通じた産学連携による若手支援等も含む）の実施、関連する調査分析・報告 「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」（L-INSIGHT）の企画・運営支援 若手・中堅研究者をターゲットとする学内ファンドの企画・運営 学振特別研究員申請支援説明会・模擬ヒアリング等）の体系化・効率化 京大創立125周年記念における寄附を利用した新学内ファンドの企画・運営 博士課程人材を含む次世代研究者（ECR）向け支援活動の実施（次世代研究者支援ポータルサイト運用、セミナーの実施、メーリングリストによる情報配信）	外国人研究者支援（外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワーキング等）の体制構築 博士課程人材を含む次世代研究者（ECR）の研究環境の改善施策および研究キャリア形成支援（卓越大学院、OPERAプログラム等を通じた産学連携による若手支援等も含む）の実施、関連する調査分析・報告 若手・中堅研究者をターゲットとする学内ファンドの企画・運営 学振特別研究員申請支援説明会・模擬ヒアリング等）の体系化・効率化 博士課程人材を含む次世代研究者（ECR）向け支援活動の実施（セミナーの実施、メーリングリストによる情報配信）

※ 本事業による取組の効果（他の事業等による影響を受けない）が検証可能である指標

※ 前年度の取組を発展させた繋がりのある取組

将来構想	事業終了までのアウトカム（2021年度-2022年度）	中間的なアウトカム（2019年度-2020年度）	アウトプット（2021（R3）年度の取組）	アウトプット（2020（R2）年度の取組）	アウトプット（2019（R1）年度の取組）
URAが定着し経営を支える大学	**産官学共創の加速** 指標(11) 包括連携を含む大型共同研究件数の増加状況	**産官学共創の加速に向けた組織整備** 指標⑩ 事業子会社を含む支援組織の全体最適化	産官学連携本部を中心とする支援体制の充実および新間接経費率30%開始による大学基盤強化	産官学連携本部を中心とする支援体制の強化および新たな間接経費率設定による大学基盤強化	オープンイノベーション機構の設置および事業子会社、学術研究支援室、産官学連携推進本部の連携強化
			研究シーズのライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営、産連支援組織共通プラットフォーム(Philo)との連携	研究シーズのライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営	研究シーズ・産学連携事例のライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営
	エビデンスに基づく戦略的運営 指標(12) 総長のリーダーシップによる学内改革推進状況 指標(13) 外部資金受入額の増加状況	**エビデンスに基づく戦略的運営に向けた体制の構築** 指標⑪ 学内改革に資するデータ分析・提供・提言のスキーム構築 指標⑫ 外部資金獲得支援事業および学内ファンド事業の運営	研究戦略マネジメントのための「IR」の実施	研究戦略マネジメントのための「IR」の実施	研究戦略マネジメントのための「IR」の実施
			大学経営や研究戦略の企画等を検討するプロボストオフィスおよび戦略調整会議（カウンシル）の運営支援	大学経営や研究戦略の企画等を検討するプロボストオフィスおよび戦略調整会議（カウンシル）の運営支援	大学経営や研究戦略の企画等を検討するプロボストオフィスおよび戦略調整会議（カウンシル）の運営支援
			公的及び民間外部研究資金の獲得支援（申請支援、模擬ヒアリング等）	公的外部研究資金の獲得支援（申請支援、模擬ヒアリング等）	公的外部研究資金の獲得支援（申請支援、模擬ヒアリング等）
			URA一元化のスケールメリットを活かした外部資金獲得支援体制の最適化と高度化	URA一元化のスケールメリットを活かした外部資金獲得支援体制の最適化と高度化	
			外部資金獲得支援を目的とする学内ファンド事業の戦略的な企画運営	外部資金獲得支援を目的とする学内ファンド事業の戦略的な企画運営	
			クラウドファンディングの利活用を推進するための体系的整備に向けた全学指針の策定		
	学内URAの定着に向けた取組強化 指標(14) URA雇用の自主財源化・無期雇用化状況		URA無期雇用の実施	URA無期雇用の実施	URA無期雇用転換の推進（学内調整・折衝）
			URA業務環境の整備（情報系等インフラの企画改善、業務物品整備、運営事務）	URA業務環境の整備（情報系等インフラの企画改善、業務物品整備、運営事務）	URA業務環境の整備（情報系等インフラの企画改善、業務物品整備、運営事務）
日本のURAシステムの先導的モデル大学	**学内URAの定着に向けた取組強化** 指標(15) 省庁・企業人材・他大学URA等との人材交流状況 指標(16) 支援ノウハウの学内外展開のための研究会等開催状況	**URAシステムの高度化** 指標⑬ 京大URAカリキュラムの受講者状況 指標⑭ 国内外URAコミュニティへの参加状況	独自のURA研修・教育プログラムの継続実施（研究支援プログラムの企画・運営を担うリーダーを養成）	独自のURA研修・教育プログラムの継続実施（研究支援プログラムの企画・運営を担うリーダーを養成）	独自のURA研修・教育プログラムの開発・実施
			国内外のURAとのネットワーク強化	国内外のURAとのネットワーク強化	国内外のURAとのネットワーク強化
			文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターに係る 質保証制度の構築に向けた調査研究」における研修カリキュラム教材開発の協力	文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターに係る 質保証制度の構築に向けた調査研究」における研修カリキュラム教材開発の協力	リサーチ・アドミニストレーションに関する研究会の企画・実施、学外研修受講
			リサーチ・アドミニストレーションに関する研究会の企画・実施、学外研修受講	リサーチ・アドミニストレーションに関する研究会の企画・実施、学外研修受講	リサーチ・アドミニストレーションに関する研究会の企画・実施、学外研修受講
			研究DX推進事業「MIRAIプロジェクト」への参画（コア大学）、融合研究形成ノウハウの横展開		
		URA人材・活動の質向上に向けた取組強化 指標⑮ URA活動のアーカイブ化 指標⑯ URA活動の内容・成果のWEB発信	URA活動のアウトリーチ強化 SNSの活用 アクセス解析の実施	URA活動のアウトリーチ強化 SNSの活用	URA活動のアウトリーチ強化
			URAの活動成果のアーカイブシステムの構築 全URAの活動内容を室内共有	URAの活動成果のアーカイブシステムの構築 全URAの活動内容を室内共有	URAの活動成果のアーカイブシステムの構築 全URAの活動内容を室内共有

※ 本事業による取組の効果（他の事業等による影響を受けない）が検証可能である指標

※ 前年度の取組を発展させた繋がりのある取組

京都大学「研究大学強化促進事業」後期ロードマップ

事業実施計画

年　度			2018	2019	2020	2021	2022	2023
将来構想	事業終了までのアウトカム	中間的なアウトカム	アウトプット					
越境する「知」「人」を生み出し循環させる大学	新たな学術領域の創成	新たな学術領域の創成に向けた取組の強化	融合チーム研究プログラム（SPIRITS）【国際型】【学際型】【産官学共創型】の企画・運営					
			分野横断研究の土壌を醸成するプラットフォーム構築事業の企画・運営					
				萌芽的な融合研究ユニットの立ち上げを可能にするライトユニット制度の創設	ライトユニットの設置と運営			
			自治体などと俯瞰的に未来社会と学術研究・科学技術の関係性を考えるための機会創出支援					
			WPI 拠点ノウハウに基づく拠点形成支援と国際アウトリーチ活動					
			人文社会科学系の研究力強化施策の実施および新たな成果発信方策の検討	人文社会科学系の研究力強化のための学内ファンドの企画および成果発信イベントの企画・開催		人文社会科学系の研究力強化のための学内ファンドの企画および成果発信企画の実施		
			研究データのオープン化のための先導調査	研究データのオープン化のための第 2 回調査を実施。オープンデータ化ワークフローの作成	研究データマネジメントワークショップの開催、研究データ管理サービスの試行提供	研究データマネジメントワークショップの開催、研究データ管理サービスの利用促進、研究者のための窓口運用開始		
					オープンアクセスジャーナル投稿料（APC）支援事業「みちびき」の企画・運営	オープンアクセスジャーナル投稿料（APC）支援事業「みちびき」の企画・運営・最適化		
		指標①新規融合研究拠点/ユニット等の設置状況（新規拠点/ユニット設置数５件）		新規拠点/ユニット設置数　5 件				
		指標②人社系を中心とするシンポジウム等の企画・開催状況		2 回/年				
		指標③研究データオープン化推進状況			研究データのオープン化の試行			
			研究成果の発信支援（研究成果の WEB・メディア発信、海外向け発信媒体の制作）					
			「国民との科学・技術対話」活動支援					
	指標(1) 国際・学際・産学融合研究プロジェクト実施数						200 件(2013 年度以降累積)	
	指標(2) 新規大型プロジェクト代表者数						300 人(2013 年度以降累積)	
	指標(3) 国際的に評価の高いジャーナル(Top5%)への掲載論文数					1,000 篇/年		
	指標(4) 人文・社会科学の未来形に関する大綱策定・発信						大綱の策定と研究成果の国内外発信	
	国際協働の深化	国際協働を深化する支援体制の構築	WPI 拠点ノウハウに基づく拠点型支援と国際アウトリーチ活動					
			海外大学との MOU 締結支援、国際シンポジウム等の開催支援による国際共同研究・プロジェクトの創出支援、海外研究機関等との戦略的パートナーシップ構築支援		海外大学との MOU 締結支援、国際シンポジウム等の開催支援による国際共同研究・プロジェクトの創出支援、海外研究機関等との戦略的パートナーシップ構築事業の企画・実施	海外大学との MOU 締結支援、国際シンポジウム等の開催支援による国際共同研究・プロジェクトの創出支援、海外研究機関等との戦略的パートナーシップ MOU に基づく、共同ファンドプログラムの企画・運営開始		
			欧州・ASEAN拠点への URA 派遣・駐在	欧州・ASEAN 拠点への URA 派遣・駐在。日欧 ASEAN の三極連携機能の構築。ASEAN 拠点についてはタイ政府より NGO 法人格を取得	欧州・ASEAN 拠点への URA 派遣・駐在。日欧 ASEAN の三極連携機能の構築。ASEAN 拠点（NGO 法人格取得済）の運営の実施	欧州・ASEAN 拠点への URA 駐在で培った人脈・情報網を通じて、コロナ状況の情報収集、ICT・オンライを活用した研究教育教材の開発支援、国際交流・ネットワーク形成支援		
			北米、アフリカ等の海外新拠点の設置支援			北米拠点（サンディエゴリエゾンオフィス含む）およびアフリカオフィス、の運営支援		
			研究成果/研究資源の海外発信強化支援					
			海外研究ファンド獲得支援体制構築		海外研究ファンド獲得支援の拡充	海外研究ファンド情報収集・提供と獲得支援の拡充		
			On-site Laboratory の構築支援	On-site Laboratory の設置と運営支援窓口の構築	On-site Laboratory の設置と運営支援窓口の運営			
		指標④URA が参画する全学的な国際化推進業務体制			URA が参画する全学的な国際化推進業務体制と組織の整備			
	指標(5) 国際化推進支援のための海外拠点等設置数						5 ヶ所	
	指標(6) 学術交流協定の締結数						200 件	
	指標(7) 国際共著論文数					2,900 本		
	指標(8) On-site Laboratory の設置状況					On-site Laboratory の設置 5 件		
	多様な人材の育成・確保	多様な人材育成・確保に向けた環境改善	外国人研究者支援（外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワーキング）の体制構築	外国人研究者支援（外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワーキング等）の体制の強化と機能の深化				
			若手・中堅研究者をターゲットとする学内ファンドの企画・運営					
		指標⑤外国人研究者支援体制の構築			外国人研究者支援プログラムの体系化			
		指標⑥国際アドミッション支援オフィスの設置			制度設計完了			

		指標⑦若手教員割合に関する目標達成に向けた取組方策の策定			方策案の策定			
		指標⑧博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)支援体制の再構成を踏まえた最適化	次世代研究者の研究環境改善施策の実施および研究キャリア形成支援	博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)の研究環境の改善施策および研究キャリア形成支援(卓越大学院、OPERA プログラム等を通じた産学連携による若手支援等も含む)の実施、関連する調査分析・報告				
		指標⑨博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)支援			「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」(L-INSIGHT)の企画・運営支援			
				学振特別研究員申請支援(説明会・模擬ヒアリング等)の体系化・効率化				
					京大創立 125 周年記念における寄附を利用した新学内ファンドの企画・運営			
				博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)向け支援活動の実施(セミナーの実施、メーリングリストによる情報配信)	博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)向け支援活動の実施(次世代研究者支援ポータルサイト運用、セミナーの実施、メーリングリストによる情報配信)			
	指標(9) 研究環境改善・キャリア形成の支援プログラム拡充						支援プログラムの自主財源運営化	
	指標(10) 多様な人材の確保・育成状況						テニュアトラック教員通算 40 人	
						留学生数通期 3,450 人		
							外国人教員等数 500 人	
	産官学共創の加速	**産官学共創の加速に向けた組織整備**	事業子会社、学術研究支援室、産官学連携推進本部の連携による共同研究等の推進	オープンイノベーション機構の設置および事業子会社、学術研究支援室、産官学連携推進本部の連携強化	産官学連携本部を中心とする支援体制の強化および新たな間接経費率設定による大学基盤強化	産官学連携本部を中心とする支援体制の充実および新間接経費率 30%開始による大学基盤強化		
		指標⑩事業子会社を含む支援組織の全体最適化			オープンイノベーションを推進する新組織整備			
			研究シーズ・産学連携事例のライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営	研究シーズのライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営		研究シーズのライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営、産連支援組織共通プラットフォーム(Philo)との連携		
	指標(11) 包括連携を含む大型共同研究件数の増加状況						20 件(年間契約年数)	
URAが定着し経営を支える大学	**エビデンスに基づく戦略的運営**	**エビデンスに基づく戦略的運営に向けた体制の構築**	研究戦略マネジメントのための「IR」の実施					
			大学経営や研究戦略の企画等を検討するプロボストオフィスおよび戦略調整会議(カウンシル)の運営支援					
			公的外部研究資金の獲得支援(申請支援、模擬ヒアリング等)		公的および民間外部研究資金の獲得支援(申請支援、模擬ヒアリング等)			
				URA 一元化のスケールメリットを活かした外部資金獲得支援体制の最適化と高度化				
				外部資金獲得支援を目的とする学内ファンド事業の戦略的な企画運営				
					クラウドファンディングの利活用を推進するための体系的整備に向けた全学指針の策定			
		指標⑪学内改革に資するデータ分析・提供・提言のスキーム構築			データ分析・提供・提言スキームの確立			
		指標⑫外部資金獲得支援事業および学内ファンド事業の運営		外部資金獲得支援を目的とする学内ファンド事業の戦略的な企画運営				
	指標(12) 総長のリーダーシップによる学内改革推進状況						プロボストとカウンシルを中心とする大学構想実現のための調整スキーム確立	
	指標(13) 外部資金受入額の増加状況					外部資金受入額 130 億円増(2012 年度比)		
	学内 URA の定着に向けた取組強化		URA 無期雇用転換の推進(学内調整・折衝)	URA 無期雇用の実施				
			URA 業務環境の整備(情報系等インフラの企画改善、業務物品整備、運営事務)					
	指標(14) URA 雇用の自主財源化・無期雇用化状況						URA 雇用費用の自主財源割合 80%	
				URA 無期雇用の実施			無期雇用化 URA 数 25 人	
日本のURAシステムの先導的モデル大学	**国内 URA 制度定着への貢献**	**URA システムの高度化**	独自の URA 研修・教育プログラムの開発・実施	独自の URA 研修・教育プログラムの継続実施(研究支援プログラムの企画・運営を担うリーダーを養成)		独自の URA 研修・教育プログラムの実施		
			国内外の URA とのネットワーク強化					
					文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターに係る 質保証制度の構築に向けた調査研究」における研修カリキュラム教材開発の協力	文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターに係る 質保証制度の構築に向けた調査研究」における研修カリキュラム教材開発の協力		
		指標⑬京大 URA カリキュラムの受講者状況			受講者数延べ 90 人(2013 年度以降累積)			
		指標⑭国内外 URA コミュニティへの参加状況			参加者数延べ 100 人(2017 年以降累積)			
		URA 人材・活動の質向上に向けた取組強化	リサーチ・アドミニストレーションに関する研究会の企画・実施、学外研修受講					
						研究 DX 推進事業「MIRAI プロジェクト」への参画(コア大学)、融合研究形成ノウハウの横展開		
			URA 活動のアウトリーチ強化		URA 活動のアウトリーチ強化 SNS の活用			
			URA の活動成果のアーカイブ化と展開	URA の活動成果のアーカイブシステムの構築 全 URA の活動内容を室内共有				
		指標⑮URA 活動のアーカイブ化			アーカイブシステムの構築			
		指標⑯URA 活動の内容・成果の WEB 発信			活動内容・成果コンテンツ発信 200 件(2018 年度以降累積)			
	指標(15) 省庁・企業人材・他大学 URA 等との人材交流状況						省庁・企業・他大学等との人材交流の実施	
	指標(16) 支援ノウハウの学内外展開のための研究会等開催状況						研究会等開催数 25 件(2017 年以降累積)	